

XXXXXLI-2 茨 tshyab

ch'ieh

XLIII-4 接 tseb

chieh

[6] 鹽侵咸覃隱等の韻に屬する文字の語尾の m 音は悉く保存されてゐる。たゞ唐韻の「藏」に cim の音の附せられて居るのは不思議である。此の字の音は吐魯番から出たトルコ語の佛典中には tso と見えて居る (Miller, Uigurica, s. 14, 15 参照)

Uigurica, s. 14, 15 参照)

XXXXIV-7 藏 cim

(今音)
tsang, ts'ang

XXX-3 謹 kim

chin

XXXXV-6 廉 lem

lien

XXX-6 皆 im

yin

XXXXVI-3 心 sim

hsin

XXXXII-9 [林] l[i]m(?)

lin

XXXXIX-8 [禽] k[i]m(?)

ch'in

XXXIV-6 尋 sym

hsün, hsin

XXXVI-9 [嚴] 'gam

yen

XXXVIII-1 統 tam

tan

XXXVII-11 南 nam

nan

XI-1 厭 em

yen

XXX-2 謙 khyam

ch'ien

XLII-9 [鑑] lam

lan

[7] 語尾の k、p を g、b で表はして居る事は前に見た通りであるが、語頭に於ても k、t、p、f 等はそれぞれ濁音 g、d、b で表されて居るものが多い。但し今音 k なる語頭音の g で表はされて居るのは少いが、之は k から求めないで、k から出た今の ch なる語頭音から縁故を求めて見れば、多くの例を見出すことが出来る。此等は單に二三の例を掲げるに止める。